

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [孫子の兵法「詭道十四変」](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

孫子の兵法「詭道十四変」

「孫子の兵法」に学ぶ

孫子は、2500年前、春秋戦国時代に兵法家「孫武」によってまとめられた、世界最古の兵法書です。5,500字、13篇からなる兵法書で、そのなかで特に有名なのが、「詭道十四変」です。「戦略とはあらゆる手段をもって相手を誤算に陥れることだ。」（安岡正篤）と言っているが「詭道十四変」には、その戦略のルールがまとめられています。この兵法から関いの方法、勝利方法を学ぶことが重要であります。

「詭道十四変」

1. 兵は詐をもって立ち、利を以って動き、分台を持って変を為すものなり
関いはだましあいだと心せよ。人は利によって動くのだと覚悟せよ。勝利はときに合体し、ときに分裂しあいながら求めるものです。
2. 自分の軍隊のほうが優勢であっても劣勢のふりをして相手をだます
3. 有利に活用できるものでも不必要な振りをする
4. 近くにいても、まだ遠方のように振る舞い油断させる
5. 自軍がまだ遠方にいるときでも近くにしているような気配をさせる
6. 小さな利益を与えて敵を誘い出す
7. 敵の統制振りを見て急襲する
8. 敵が強力であるときは備えを堅くする
9. 敵に勢いがあるときは関いを避ける
10. 挑発して敵勢を乱す
11. 低姿勢にして敵を油断させる
12. 敵を刺激してゆとりをなくさせる
13. 内部工作をして敵を分裂させる
14. 敵のふいをつく

孫子の兵法の極意は、

「敵を知り、己を知れば、百戦、危うからず」で、「戦わずして勝つ」ことにあります。いざ戦いとなると、きれいごとを言っている方が負ける。勝つために策略のかぎりを尽くしても良い、と割り切っている。正々堂々の精神からは、容認できないように思うが、負ければ地獄におちるのだから、なんとしても勝たなければならない。勝つために知恵を使い、技を駆使し、詐道を容認したものである。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

傾聴

>>一覧へ戻る

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.